視　察　報　告　書

２０１７年5月2日
日本共産党市議団

■平成２９年２月３日（金）
■以下、市内各学童保育所について
・八木北小学校の学童クラブ
・流山おおたかの森小学校の学童クラブ
・南流山小学校の学童クラブ

・八木北小学校の学童クラブ
　旧美田保育所の跡地を活用した学童クラブ施設。公設でありながら保護者による運営時に建設されたこともあって、学校とは別施設で、学童独自の広場もあり、ボール遊びや鬼ごっこなど放課後の児童発育にはより良い環境といえる。
　また、ロッカーの大きさ等もランドセルのサイズ変更にも即した対応がされていること、支援員の目線と子どもの動きがさえぎっていないことなど、学童保育の運営実績に裏付けられた施設設計といえる。
　運営面では、指定管理導入後２回の入札を経ているものの、支援員の確保、労働環境の管理、財務・税制処理、専門性の継続など５年契約の指定管理制度での難しさや課題が運営者と共有できた。

・流山おおたかの森小学校の学童クラブ
　学校建設時に、校舎別施設から校舎内施設へ変更された経緯があり、保育の場というより教室内という面は否めず、学校でも家庭でも見せない子どもの心の開放のためには、指定管理者の努力が欠かせない。
　同時に、対象児童の増加、習い事の多様化、新しく市民になった方が多い特徴から、「保育に欠けるため毎日利用する」という以前の実態からは変わっているように思われる。
　また、児童増加に伴い増やした施設は英語の特別教室であることから、寝ころんだり、リフレッシュできる場ではないことも心配された。なお、以前は、学校施設と学童クラブとは、運営時間帯の違いからも、区切りがしっかりされていたがおおたかの森小学校では、あいまいになっていることも懸念される。
　運営面では、ビデオを使った学童保育への理解を深める努力は目に見える形で保護者の評価も高いのではと思われる。
　また日々、利用する児童の変更があり、安全面等を考慮すればその把握は本当に大変だと思われた。また、同時に、保護者との連携や、学童保育への理解を深める一層の努力が指定管理者や市にとても求められている地域だと認識できた。

・南流山小学校の学童クラブ

児童増加により校舎増築の中で、学童施設にはなかなか日が当たらない日々が続いている。

また児童増加に伴い施設的な容量はあるものの、生活の場としてのトイレの確保、台所の増設には至っておらず、また 1 階・2 階の連携は屋外階段利用のため、衛生面も施設面での課題が多く、人権にもかかわる課題だけに、指定管理者任せではなく、市の姿勢が鋭く問われていると思われる。

運営面では、急な延長保育料の改善等が新年度から行われるとの努力はもちろん、指導員の専門性を高める努力も評価できる。ただ、市内では、指導員の正規化が遅れている指定管理者だけに、今後も注視が欠かせないと思われた。